

相摸屋政五郎

帝キネ芦屋時代映畫
 原作並脚色者 江後 岳翠氏
 監督者 唐澤 弘光氏
 撮影者 鍋木 英一氏
 主要役割
 相摸屋政五郎 明石 緑郎氏
 女房お照 松枝 鶴子嬢



「相摸屋政五郎」 帝キネ芦屋唐澤氏作品

乾分 千太 嵐 璃若氏
 同 仙吉 中村 仙三郎氏
 同 芳兵衛 嵐 瑞運兒氏
 同 吉藏 岩井 竹緑氏
 仙臺屋與五郎 實川 延笑氏
 家臣廣瀬源工門 阪東 豊昇氏
 乾分 武平 東 良之助氏
 食客 小關佐文治 齊田 幾三郎氏
 羅生門 重助 片岡 寛十郎氏
 松平土佐守 尾上 松二郎氏
 茶屋の女 二葉 菊子嬢

解説—「怪龍丸」について唐澤弘光氏が監督製作した時代劇である。略筋—伊達で生きる一世の侠客相摸屋政五郎は父幸吉右工門が仙臺屋安五郎の爲に理不盡なる迫害を受けた事、及び與五郎が彼の繩張りを奪取せんとした事から、流石温厚な彼も遂に仙臺屋を糾弾すべく單身敵の本壘に乗り込んで男性的意氣を揚げた。然し夫は羅生門重助の援依つて事なきを得たが、此事あつて以來政五郎の名聲は巷間に宣傳された。其頃高知二十四万石の領首松平土佐守は政五郎の名聲を聞き彼を招致して同家の元締たらんとしたが、義に富む彼は仙臺屋の立場を考慮して飽までそれを辭した。與五郎は彼を曲解し、鬪途を擁して撃たんと

し、却つて彼の爲に命を落した。然し俠兒相政も時代の生んだ伊達衆であつた彼は敵乍らも與五郎の死を悼み懇に葬つた勇々しも優しき相政の行ひに人々は賞讃の言葉を惜しまなかつた。